

◎濱野 京子¹⁾、金橋 徹¹⁾、松尾 明彦¹⁾、山下 史乃¹⁾、田中 洋子¹⁾、西山 有紀子¹⁾
京都大学医学部附属病院 検査部¹⁾

【はじめに】

近年、院内感染防止対策の重要性が増してきており、検査技師も感染対策チーム（ICT）の一員として院内ラウンドや耐性菌集計等、ICT活動を積極的に行っている。当院では、微生物検査技師・医師を含む多職種による看護師の感染管理の教育・研修も行っており、微生物検査技師と看護師が意見交換や交流をする機会となっている。本発表では、看護師を対象とした感染管理に必要な微生物学的な知識に関する教育・研修の一例を紹介する。

【内容】

研修対象は、5年目から31年目の看護師15名であった。3日間の感染管理研修のうち、約1時間30分が微生物検査関連の講義・実習であった。講義は約30分行い、手指衛生の重要性、血液培養を中心とした検体採取・薬剤耐性菌・抗菌薬適正使用等について説明した。実習は約1時間検査室内で行い、検体の提出方法から受付・機器への充填・血培陽性処理方法・グラム染色の鏡検・検査結果の見方等を一連の流れを通して説明した。質問は随時受け付け、その

場で回答するようにした。

【評価】

検査や院内感染対策の重要性を理解してもらうために、「なぜそれが重要なのか、必要なのか」という理由に重点をおいて説明を行った結果、大変わかりやすいと評価を得ることができた。また、終了後のアンケートでは、微生物検査に興味を持ったとの回答があった。

【まとめ】

対話の質問内容は次の研修に活かし改善していき、今後とも継続して微生物検査技師から積極的に看護師への感染に関する教育や研修を行い、チーム医療として院内感染防止対策に貢献していきたい。

会員外協力者：長尾美紀、野路加奈子、植村明美